

大卒ニート

今春、全国の大学を卒業した学生の進路動向が文部科学省による「2012年度学校基本調査」によって明らかとなりました。

その結果の概要は、下表のとおりとなっています。

卒業者数	55万9千人	100.0
内進学	7万7千人	13.8
就職 (内非正規雇用)	35万7千人 (2万2千人)	63.9
一時的就労	2万人	3.5
就職も進学もせず (内ニート等)	8万7千人 (3万4千人)	15.5

今春、全国の大学を卒業した学生は56万人いますが、その内正社員として就職した者は約35万7千人、就職率は63.9%で、対前年2.3ポイント改善されています。

また、大学院などに進学した人は約7万7千人（13.8%）となっています。

また、非正規で就職した人やアルバイトなど一時的な仕事についている学生は、全体で4万人を超えており、若者の雇用環境の厳しさを改めて実感しています。

更に、就職も進学もしていない学生が約8万7千人となっており、その内約6割の学生は就職や進学の準備中という事ですが、残りの4割の学生（約3万4千人）はいわゆるニートの状態にある事は、極めて深刻だといわざるを得ません。

文部科学省は、今回の結果に対して「リーマン・ショックで大きく落ち込んだ就職率は持ち直しつつあるが、本人が望まない雇用形態で就職せざるを得ない状況は改善すべき課題だ」としています。

日本の将来を担うべき多くの若者たちが、不安定な労働環境の中で希望を見

失い、就職する事さえ諦めてしまうような事態は誠に不幸だし、放置できる問題ではありません。

国としても、早急に具体的な対策を講ずべきです。

学生を雇用する側の企業にとっては、経済不況の中で雇用調整をせざるを得ない状況もあると思いますが、良質な労働力の確保という面からも、計画的な雇用の確保に努めていただきたいと思います。

一方、大学側の取組も問われています。

3万人を超える二トの中には、様々な企業にチャレンジしたけれど全て旨くいかず、結果、就職自体を諦めてしまっている者も多いと思われます。卒業した学生に対しても、アフターケアを十分取るべきでしょう。最後まで、支援の手を差し延べる必要があると思います。

また、就職難の一方では、雇用のミスマッチという問題も起こっていますので、学生に対して適格な進路指導を行うべきです。

今日の雇用環境の厳しさは、企業側の姿勢に影響されるところ大ですが、同時に、大学におけるキャリア教育がどうなっているのかも問われるところでは。

更に、一つ付け加えると、卒業する学生たちの質の問題も問われています。

先日、道内企業の経営者とお話する機会があったのですが、その経営者の話によると、今年も10名程度新規採用を行ったが、その内、日本人学生は半分以下で、残りは外国人留学生だったとの事です。日本人の学生の質が低くて使えない、というのですが、こうなると日本の大学教育自体の質が問われる問題でもあり、事態はますます深刻です。

高齢化が進み、日本全体が萎んでいくような不安感がありますが、それを払しょくして日本社会が活力を保持していくためには、若者たちが夢と希望を持って参画できる社会にしていかななくてはなりません。

今こそ、国、大学、企業関係者が一体となって、具体策を講じる時です。今や、待ったなしです。(塾頭 吉田 洋一)